Economic Indicators
定例経済指標レポート

テーマ：ロイター短観（2009年10月）
～円高や原油高を受け製造業が小幅悪化～

発表日：2009年10月15日（木）

第一生命経済研究所　経済調査部
担当 エコノミスト　岩田　陽之助
TEL：03－5221-4525

○製造業ＤＩ：小幅悪化

10 月ロイター短観（調査期間９月 24 日～10 月９日）の製造業ＤＩは▲35 と前月（▲33）より２pt 悪化した。今回の悪化は、原油価格の上昇による石油・窯業の大幅な悪化によるところが大きいが、原油高だけでなく円高の進行や受注回復ペースの鈍化などもあり、これまで着実に改善が続いてきた製造業のマインドにも変化が現れ始めている可能性がある。

内訳を見ると、素材型は、▲34 と前月（▲26）より８pt 悪化した。特に、原油価格の上昇から石油・窯業（９月▲27→10 月▲60）が大きく悪化している。また、衣料品などの販売不振を受けて繊維・紙・パルプ（９月▲29→10 月▲38）が悪化した他、化学（９月▲13→10 月▲13）は横ばいで推移したものの「中国市場に陰り」など需要の鈍化を懸念するコメントが見られた。

加工型は、▲35 と前月（▲37）より小幅改善した。個別に見ると、輸送用機器（９月▲50→10 月▲17）が政策効果の持続から大幅に改善したほか、精密・その他（９月▲20→10 月▲10）も改善している。一方、電機（９月▲36→10 月▲39）は「受注に陰りが見えてきた」ことや「円高の進行」を背景に悪化したほか、食品（９月 13→10 月▲12）も「長梅雨や低温などが影響」して悪化した。

先行きについては、概ね改善が見込まれているものの、輸送用機器が▲25、精密・その他が▲20 と悪化が見込まれていることが懸念される。①在庫調整進展による大幅な生産増加が一巡すること、②日本の政策効果が一巡することなどから、先行きを懸念していると考えられる。他の業種においても、受注の鈍化を示唆するコメントが見られており、製造業においては先行きへの警戒感が高まっている。

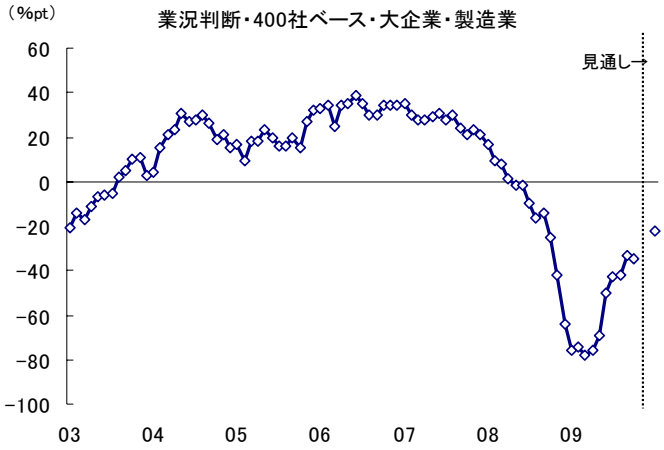
○非製造業ＤＩ：小幅改善

非製造業のＤＩは▲33 と前月（▲34）より１pt 改善した。小幅ながら２ヵ月連続での改善となっており、製造業の回復が波及することで、非製造業の業況は緩やかに持ち直しつつあるようだ。もっとも、持ち直しの度合は限定的で、水準も低いままである。

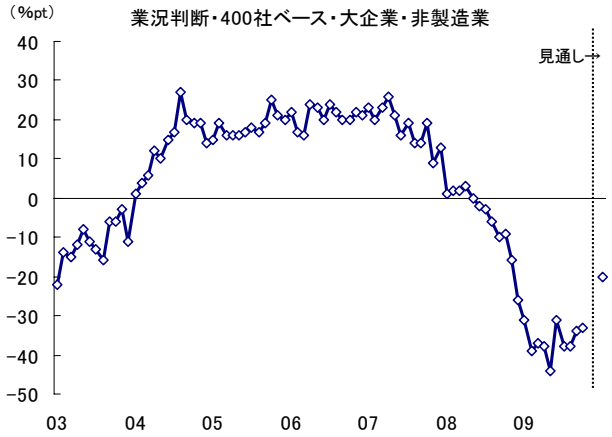
内訳を見ると、製造業の回復による物流量増加を受けて、運輸・電力等（９月▲50→10 月▲33）が上昇したほか、小売（９月▲41→10 月▲31）やその他サービス（９月▲30→10 月▲26）などの業種で改善が見られた。一方、住宅取得、公共事業や民間設備投資の減少を受け、不動産・建設（９月▲40→10 月▲50）が悪化したほか、「単価低減要請が激しい」（通信）「低価格競争による粗利の低減」（卸売）といったコメントにみられるように、価格低下圧力の高まりにより、情報サービス（９月▲17→10 月▲31）や卸売（９月▲19→10 月▲27）などの業種が悪化した。

３ヶ月後の見通しを見ると、全業種において改善が見込まれている。製造業の回復が波及する形は続くと思われるが、①雇用過剰感や設備過剰感により内需の弱さが持続すること、②需給面からの物価下落圧力が続くことなどを考えると、緩やかな回復ペースが維持されるだろう。

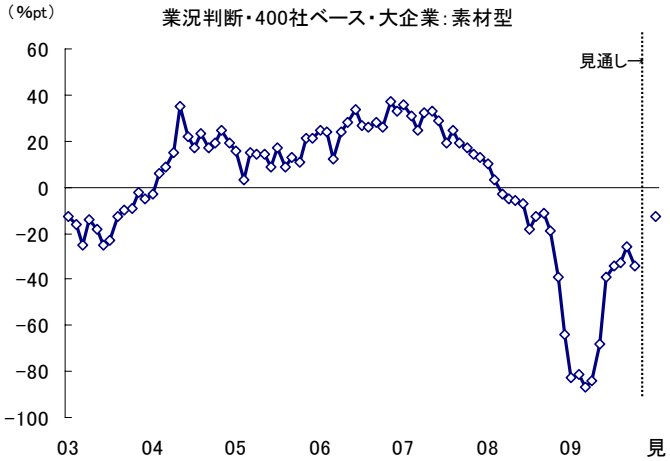
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



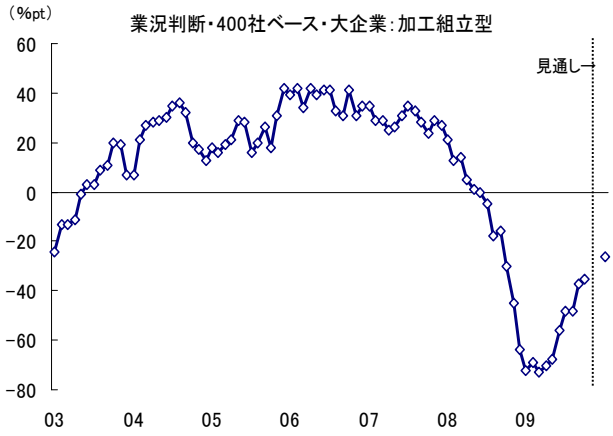
（出所）ロイター「ロイター短観」



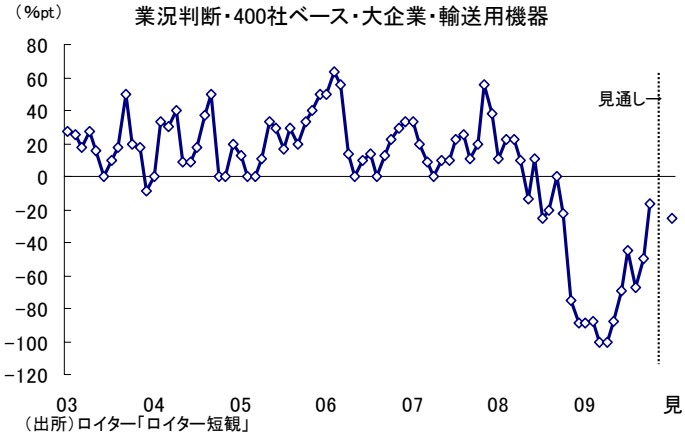
（出所）ロイター「ロイター短観」



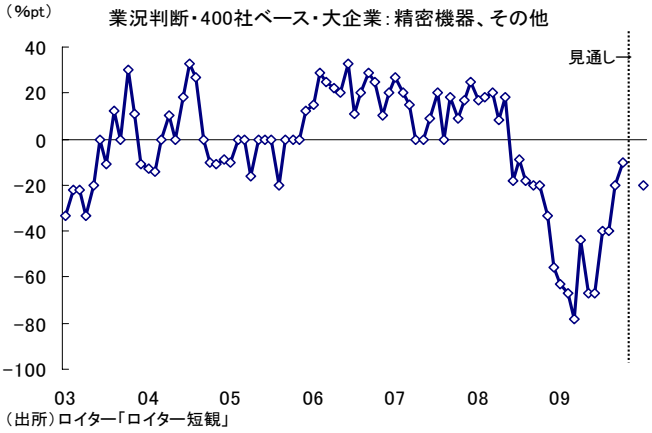
（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」



（出所）ロイター「ロイター短観」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。